

2023年 ルワンダツアーレポート

- ・主催者：NPO 法人ルワンダの教育を考える会（NPO-TER）
- ・日程：2023年8月5日～8月19日
- ・案内人：永遠瑠マリールイズ理事長
- ・特別案内人：宮下孝之顧問
- ・参加者：計11名（敬称略）
倉持睦子、目黒留美子、中西志津子、斎藤久美子、高橋こころ、
菅野芳光、菅野直和、福井泰介、金野竜見、上野真之介、岩淵敦（執筆者）



2023年8月7日 ウムチョムイーザ学園にて

1. 8月5日～6日（成田出発～キガリ到着まで）

成田からキガリ迄の道程とホテルや初日の夕食会の様子を報告します。ツアーメンバーは、8月5日夕刻に成田空港に集合し、21：15発のエチオピア航空ET0673便でトランジット空港となるエチオピアのアジスアベバ空港へ向かいました。途中韓国の仁川空港に下りて再入管検査を受け、改めて同じ便で仁川空港を出発し8月6日現地時間の朝7:20に雨のアジスアベバ空港に到着.....ここまでで約17時間かかりました。



雨のアジスアベバ空港



空港内は大混雑でした



キガリ空港に向かいます

朝のアジスアベバ空港は寒く、大混雑していました。キガリ迄の乗り継ぎ便を待つ間、空港内を探索して、11:30発のエチオピア航空ET0807便でキガリに向けて出発しました。



キガリに到着...温かな出迎えが嬉しい



宿泊した Hotel Chez Lando（シェランドホテル）



現地時間13:00にやっとキガリに到着.....ここまでで成田出発から約24時間。空港には、ルワンダの教育を考える会キガリ事務所のスタッフとキガリ・ヴィルンガロータリークラブのメンバー3名が迎えに来てくれていて、花のプレゼントや荷物の運搬の手伝いなど、至れり尽くせりの歓迎ぶりでした。長旅の疲れも吹き飛ばすあたたかな出迎えで、メンバーの皆さんは一樣に感激していました。キガリに着いたこの日は、成田から一緒に来た城西国際大学の方々と懇親を兼ねた夕食会を開きました。



城西国際大学の方々と合同の夕食会...自己紹介などをしながら懇親を深めました

2. 8月7日（NPO-TER 現地事務所訪問とウムチョムイーザ学園・スクールガーデン見学）

この日は、午前中ルワンダの教育を考える会のキガリ事務所を訪れて今回のツアーの内容・スケジュールの再確認をしました。なかなかハードなスケジュールですが、普通の観光旅行では絶対に体験できないプログラムが目白押しで、大変楽しみです。午後からはウムチョムイーザ学園を見学しました。学園は夏休み

中で子供たちはほとんどいませんでしたが、理事長・校長をはじめ学園のスタッフと、ここに子供を通わせている貧しいご家庭の父兄が暖かく私達を出迎えてくれました。



午前中 NPO-TER 現地事務所を訪問



事務所での昼食の様子



午後ウムチョムイーザ学園を訪問



登校していた子供達



理事長や校長等との会談



ウワーヨ君の絵画を背景に

理事長や校長等から学園の運営状況の説明がありましたが、コロナ禍での学生の減少や最近の政府の施策（公共小中学校の学費免除）などにより、元々貧しい児童相手に救済の手を差し伸べてきたこの学園の運営は火の車ということでした。それでも先生方は明るく情熱をもって、熱心に児童たちの教育に取り組んでおり、その姿に感動を覚えました。なんとか少しでも支援できると良いのですが.....

その後、学校給食用の野菜や鶏卵を生産しているスクールガーデンを見学。少しでも安く、栄養価の高いものを給食で提供しようとする努力には本当に頭が下がります。



大勢の父兄が歓迎のために集まってくれました



スクールガーデンを見学



養鶏の様子



見事なキャベツ畑



収穫したバナナと共に帰途へ

3. 8月8日（日本大使館とJICA 日本事務所、キガリジェノサイド記念館訪問）

日本大使館では、最初にルワンダに日本の高専制度を導入検討するチーム（マリールイズ理事長、宮下顧問、菅野&岩淵アドバイザー：以下 KOSEN チーム）と福島大使との間で高専プロジェクトのご説明と意見交換を行いました。その後、ツアーメンバーと城西国際大学の合同チームで大使との懇談会が開かれ、大使館の役割や活動内容のご紹介や意見交換が行われました。引き続いて、合同チームで JICA キガリ事務所を訪問し、ルワンダにおける日本の役割や様々な支援活動の実態を学ぶことができ大変参考になりました。観光ツアーでは絶対に訪れることがない場所だけに、皆さん真剣に討議に参加し要点をメモしていました。



駐ルワンダ日本大使館にて



JICA キガリ事務所にて

その後、宮下顧問の案内でキガリジェノサイド記念館を訪れました。29年前に起きた悲慘な出来事に心を痛め、皆さん涙を禁じ得ない様子でした。絶対にこのような悲劇が繰り返されてはならないし、そのためにもルワンダの教育を考える会の理念を具体化する活動を続けなければならないと強く思った瞬間でした。



キガリジェノサイド記念館入口にて



合同墓地をお参りするメンバー

4. 8月9日（リンドウ栽培農家と TVET：技術職業教育訓練機関、キガリ・ヴィルンガ RC 訪問）

キガリ到着から三日目の8月9日は、午前中ルワンダで欧州向けのリンドウの花を栽培して、新たなビジネスに成功している原田さんの農場へ。岩手県で栽培しているリンドウをヒントにして、冬のないルワンダで年中リンドウの花を咲かせることに成功。今はどんどん経営規模を拡大中で、多くのルワンダ人の雇用を創出している原田さん。まだ若い原田さんですが、お話を伺うとリンドウ栽培に対する熱意・創意・工夫と努力が物凄いことが良く分かります。その後栽培しているリンドウの花を見学させていただきました。出荷先は主に欧州ということで、年中花を咲かせることは可能だが需要の高まる12月-1月に出荷数量を集中さ

せているために、今の時期は少量の花しか見ることができませんでしたが、300名近い従業員たちは冬に向けての仕込みに忙しそうでした。この農場は現地雇用にも大きな貢献をされています。



原田さんを囲んで記念撮影



広大な原田ファームでは約300名を現地雇用

その後、KOSEN チームは、TVET（技術職業教育訓練機関）でルワンダの高等教育の実情や新たな教育制度改革についてお話を伺いました。私達からは日本の高専制度について説明を行い、ルワンダにおけるKOSEN 実現の可能性を議論してきました。



TVET にて



道々でよく見かける働き者のルワンダ人

夜はツアーメンバー全員で、ミヨベプロジェクトの実施国ロータリークラブであるキガリ・ヴィルンガロータリークラブの例会にメイクアップしました。とても暖かく、そして盛大な歓迎ぶりに皆さん大感激でした。バナー交換やプレゼント交換後、保原ロータリークラブからの感謝状と記念品の贈呈を行いました。例会終了後はメンバー全員ホテルのバーでの懇親会に招待され、交友を深めました。



例会でご挨拶するマリールイズ理事長



会長を囲んで



懇親会場で

5. 8月10日（空手道場、教育省、ルワンダアートミュージアムとニャマタ虐殺記念館訪問）

この日午前中は、キガリの郊外にあるスポーツ施設で行われている空手の練習を見学。在ルワンダ日本大使館では、空手道日本大使杯の開催や、400枚の畳を含む空手器材の寄贈などを行ってきており、その成果もあってルワンダでは柔道より空手が盛んだそうです。私たちは小学生クラスの練習風景を見学させていただきました。子供たちの真剣なまなざしと練習風景に思わず拍手です。ツアーメンバーの金野さんからはお礼に太極拳の披露があり、子供達から羨望のまなざしを受けていたのが印象的でした。



真剣な眼差し



気合が入っています



金野さんの太極拳



子供達と記念撮影



見学後、ツアーメンバーで記念撮影

空手の見学後、KOSEN チーム単独で教育省を訪問し Chief Technical Advisor の Eng.Pascal GATABAZI 氏と会談。ルワンダ版 KOSEN 設立構想について説明後、意見交換を行いました。GATABAZI 氏は、日本の高専制度について高い関心を示し、今後より良い教育制度の確立に向けて相互の情報交換の継続を約束してくれました。



GATABAZI 氏を囲んで

午後からは、29年前のジェノサイドの悲劇の爪跡を残す代表的な施設、『ルワンダアートミュージアム(旧『大統領官邸博物館(Presidential Palace Museum)』と、『ニヤマタ虐殺記念館』を訪問しました。

『ルワンダアートミュージアム』は旧大統領官邸を改造して、現代ルワンダの絵画や彫刻などのアート作品を展示しています。展示品を見学した後は、ミュージアムの庭の奥にあるジェノサイドのきっかけになったと言われるハビヤリマナ大統領が乗っていた飛行機が砲撃され墜落した現場を見学しました。現場は撮影禁止ですが、中に立つと墜落した飛行機の残骸が生々しく、当時のままにエンジンや翼などいくつものパーツに分かれて広がっていました。



旧大統領官邸前で



バルコニーで



アートミュージアム全景

続いて、キガリから車で約1時間離れた『ニヤマタ虐殺記念館(旧教会)』を訪問しました。キリスト教国であるルワンダにおいて、教会は神様のいる安全な場所と考えられていたため、虐殺を逃れるために約1万人のツチ族の人々がここに集まり、教会内に立てこもりましたが、その人々に向けて手榴弾が投げ込まれ銃やナタによる殺戮が行われたそうです。教会内には無数の手榴弾や銃の穴が見られ、虐殺の激しさを物語っていました。教会内に侵入した虐殺者たちは、生き残った人々を祭壇に集めてナタなどでとどめを刺したそうで、血の付いた無数の衣服と身分証明書は当時のまま残され、教会の椅子の上に置かれていました。また、教会の外でも虐殺は行われ、合計5万人もの遺骨が教会の墓地の地下に埋葬されていました。そこには無数の棺桶と遺骨が安置され、思わず手を合わせずにはいられませんでした。もう二度とこのような悲劇が起きませんように！



ニヤマタ虐殺記念館(旧教会)入口付近



当時の様子が書かれた説明板

6. 8月11日(イネス大学とIPRC TUMBA訪問)

この日は、午前中ルワンダの北西ルヘンゲリ地区にあるイネス大学を訪ねました。ルヘンゲリはマウンテンゴリラの生息地で有名ですが、キガリからは遠く3時間程かかります。そこで、バスの運転手が気を利か

せて一刻も早く我々を送り届けようと物凄いスピードで飛ばし、追い越し禁止区間で追い越しを掛けたら警察官に捕まって違反切符を切られてしまいました。

さてイネス大学は私立大学ではルワンダでトップクラスの総合大学だそうで、マリールイズさんが大学の国際化協力に関する提携を結んでいる関係と KOSEN プロジェクトの参考に大学の教育実態を把握する目的を持って訪問しました。夏休み期間ではありましたが、この大学では夏季期間中にも短期留学や補習などの様々なプログラムが用意されていて、キャンパス内に多くの学生たちを見掛けることができました。大学側からの説明を受けた後、構内でのエレクトロニクス系の実習の様子も見学させていただきましたが、その限りでいえば教育レベルは日本の工業高校レベルに近い印象で、やはりもっと高度な先端的技術を学べる教育施設が必要ではないかと改めて感じました。



大学の説明を受けるメンバー



理事長が以前植樹した構内の畑



大学構内で記念撮影

午後からは、IPRC TUMBA を見学しました。IPRC TUMBA は、ルワンダの高等教育機関で、技術的な人材を育成することを目的として 2007 年に設立され、代替エネルギー、電子通信、情報技術などの分野で A1（ディプロマ）レベルのコースを提供しています。設立時から JICA との間で日本の技術支援に関する協定が締結され専門家が派遣されて、海外および国内のスタッフトレーニングとトレーニング機器が IPRC TUMBA スタッフに提供された経緯があります。また、当時の JAICA 理事長であった緒方貞子さんが深く関わった事業でもありました。現在は、ルワンダの新たな教育体系である公立 TVET センターの上位校となるポリテクニク校の位置づけに変わり、ルワンダの産業界に役立つ技術人材の育成機関となっています。私達の提唱するルワンダ版 KOSEN に最も近い教育機関として、教育プログラムや技術レベル、運営の課題などを見聞してきました。私達の提唱する KOSEN との大きな違いは、貧しくても優秀な学生を受け入れる制度や、産業界と密接に連携した運営とそれによる学生の就職率の向上という視点が薄いということでした。

今回のイネス大学、IPRC TUMBA の見学を通して、ルワンダ版 KOSEN が目指すべき方向性や設立の難易度などが少し明らかになってきました。ルワンダ教育省や TVET の方針、JICA の今後の動きなども考慮して今後の活動に生かしていかなければならないと感じました。



玄関には緒方貞子さんの写真も



高専制度について意見交換



全員で記念撮影

7. 8月12日（ミヨベ訪問）

この日は城西国際大学との合同チームでミヨベを訪問しました。目的は、2021年6月にスタートした国際ロータリー・グローバル補助金事業＝通称ミヨベプロジェクトのツアーメンバーへの紹介と、最新の進捗状況の確認でした。NPO-TERがミヨベに手を差し伸べ始めた約7年前、ミヨベは本当に貧しくその生活ぶりは人間としての最低限のものでした。住環境と衛生状態は劣悪で乳幼児死亡率が高く、生活手段は物乞いや荷運び程度しかありませんでした。それが、NPO-TERの支援とグローバル補助金事業によってどれほど改善したのか、ツアーメンバーと共にこの目でしっかりと見てきたかったのです。



ワインディングロードを行きます



途中ギチュンビ市役所で休憩



運送の主役は自転車です

結果は驚きと感動の連続でした。ミヨベに到着した際の住民たちの熱烈な歓迎ぶりや、感謝の気持ちが痛いほど伝わるおもてなしには涙が止まらなくなりました。私たちを歓迎する踊りは一時間以上も続き、住居や畑などを見学する間も踊り続けてくれました。



手作りの歓迎ゲートで出迎え...歓迎の踊りは一時間以上途切れません なんと山羊や牛が飼育されています

また大きく変貌した生活の様子はあまりにも感慨深く、まるで別世界に来たような錯覚さえ覚えました。来てみて良かった！そしてこのプロジェクトを始めて良かった！としみじみと思いました。ただ、まだまだ道半ばです。これからこの子供たちがきちんとした教育を受け続け、成人してこの村を更に発展させる原動力となるまで見届けたいとも思いました。



手作りの家具



炊事用かまど



貯水槽



補修された屋根と洗濯物干場



開墾した畑で記念撮影



収穫した野菜



歓迎会場で出迎えてくれた住民



歓迎の踊り

歓迎会場では民族衣装を纏った住民の喜びがあふれるダンスや、この日のために必死で練習したであろう子供達や父兄の寸劇の披露、マリールイズ理事長への感謝の詩の朗読、住民代表、来賓の挨拶、ミヨベプロジェクト関係者への山羊や収穫したジャガイモの贈呈、住民へのプレゼントの贈呈など盛り沢山のイベントが行われました。この日は住民と別れがたく、後ろ髪惹かれる思いでミヨベを後にしました。



寸劇や踊りの歓迎が続きました



山羊やジャガイモの贈呈式も



全員で記念撮影

8. 8月13日（アカゲラ国立公園、ECD ブササマナ訪問）

ルワンダに着いて調度1週間が経ちました。毎日のハードスケジュールで疲れもピークに達した感じですが、今日は休日なのでアカゲラ国立公園のサファリツアーで休息ということになりました。がしかし、サファリツアーは朝が早く4時起きて5時ホテル出発です。休息どころではないという意見もチラホラ。しかし、今回の一番のお楽しみがサファリツアーという方も多く、皆さん張り切っていました。



朝5時に出発...途中朝日を拝みます



途中休憩...皆さん元気です



よく見掛けたバナナを積んだ自転車

アカゲラ国立公園に向かう幹線道路は、かなりの部分が日本（JICA）の資金と技術支援から出来ていて、歩道や街灯をきちんと整備していたり、道路の舗装がしっかりしていて揺れが少ないなど、さすが日本の仕事という声があがりました。一方幹線道路から公園に通じる未舗装路が、最近中国の支援で舗装化されたのですが、舗装の状態が良くなく明らかに振動が多く感じられ、クオリティーの差を実感しました。

この時期のアカゲラ国立公園は乾期。動物たちも陽射しを避けて茂みに隠れたりして、サファリツアーにはあまり良い条件ではありませんでした。ただ、滅多に観ることができないといわれているシロサイとバッファローをいきなり発見して大盛り上がり。ワイワイガヤガヤと楽しいサファリツアーでした。



アカゲラ国立公園ゲート付近で



非常に珍しい白サイ



バッファロー



キリン



インパラ



皆さん、待望のアカゲラ国立公園でご機嫌です



ウミワシ



ベルベットモンキー



バブーン (ヒヒ)



ブッシュバック



セイキムドリ

アカゲラ国立公園の帰途に、最近マリールイズ理事長が支援を始めたという ECD (Early Childhood Development) プサマナを訪問。子供たちと昼食を一緒に食べたり、追いかっこをして遊んだりして交流してきました。この辺りは、ジェノサイド後国外に逃れた難民を収容するためにアカゲラ国立公園の一部を住宅地に転用した地域です。やはり貧困層が多く、地域の方が幼児の食生活や衛生環境を改善するために ECD を建て、そこに周辺の幼児を集めて給食支援をしているそうです。ミヨベほどではないですが、支援の手が必要な地域です。早速帰国後、ツアーメンバーの金野さんが募金活動を始めています。



歓迎してくれた子供達



一緒に食事をしました



全員で記念撮影

9. 8月14日（ルダシングワ真美さんの義肢工場見学、教育大臣との会談）

ルワンダ滞在も残り4日です。この日は午前中ルダシングワ真美さんの義肢工場を見学しました。足が不自由なガテラ・ルダシングワ・エマニュエルさん（68）と結婚した妻の真美さん（60）は、義足や義手などを無償提供する活動をジェノサイドがあった3年後の1997年から続けています。この間手足を切断された人も多く出たこの国で、延べ約1万1000人分を作ってきたということです。近年の経済成長が注目されるルワンダで、障害者が取り残されることのない国になるよう願って取り組んできたそうです。



ゲストハウスで記念撮影



製作された義肢の数々



製作現場を見学

2020年に新義肢製作所建設のためのクラウドファンディングを開始し、集まった寄付を無駄にしないため建築資材などを自分たちで購入し手作業で建設を進め、2022年5月に現在の新しい義肢製作所が完成したそうです。新義肢製作所には、ゲストハウスとレストランが併設されており、その利益は義肢を製作する費用にも充てられるとのことでした。

午後からは8月10日の教育省訪問の際にはお会いできなかったクローデット・イレレTVET（職業訓練）・ICT担当国務大臣が、夏休み中にも関わらず私たちにお会いいただけるということになりKOSENチームで訪問しました。クローデット・イレレ大臣はルワンダの高等教育の現状を良く理解されており、日本の高専制度に深い関心を持たれているようでした。会談の中でいくつかのご提案をいただき、今後も引き続き情報交換を続けることで合意いただけました。



クローデット・イレレ大臣を囲んで

10. 8月15日（インド独立記念式典、ピースコンサートへの参加）

この日は日本の終戦記念日に当たります。

午前中私たちは、ミヨベプロジェクトで実施国クラブとなっているキガリ・ヴィルンガロータリークラブの前会長から招待いただいたインド独立記念式典に参加しました。厳かな式典に続いて、華やかな歌や踊りなどの披露などがあり、私たちは最前列で見学できました。普通は経験できないインド式の式典に参加できて、インド出身の皆様の温かな心遣いに感謝したいと思います。



式代会場の教会前で



式典は最前列で



様々な踊りが披露されました

午後はルワンダの教育を考える会主催のピースコンサートに参加しました。このイベントは日本の終戦記念日に合わせてルワンダと日本をインターネットでつなぎ、両国の平和を願う式典として毎年開催されています。今年はジェノサイド記念館の屋外ホールを借りて盛大に行われました。



ジェノサイド記念館の屋外ホール



福島大使、塩塚 JICA 所長も出席



ルワンダダンスの披露

様々な体験を持った各国の人々が一堂に会し、日本からも広島をはじめ全国各地から Zoom を介して参加して友好を深めました。世界の平和を願う感動のピースコンサート、これからも続けていきたいですね。そして、より多くの方々がこのコンサートに参加して、友好のネットワークが広がって欲しいと切に願います。



次々と披露されました



城西国際大学のどらえもん踊り



コンゴのパフォーマーの寸劇



広島からのメッセージ



空手の披露



ウムチョムイーザ学園の折り鶴



素晴らしい歌声を披露したデュオ

マリールイズ理事長も幸せそう

ウワーヨ君の絵の前で記念撮影

11. 8月16日（フリー観光、JICA 所長との会談）

この日ツアーメンバーは、基本的にフリーの日となりました。午前中、宮下顧問の案内で、国会博物館、「ホテルルワンダ」の舞台ホテルミルコリンズ、キガリ市役所を訪れました。その後は皆さん、観光やショッピングなど、三々五々思い思いに過ごしたようです。



国会博物館



ホテルミルコリンズ...ティータイムを楽しみました



キガリ市役所

KOSEN チームはツアーメンバーと別れて再び JICA 事務所を訪れ、塩塚 JICA 所長と KOSEN 構想について意見交換を行いました。ルワンダの高等教育における問題認識（構想が先行して実態が追いついていない、学生の就職率が十分ではない、貧困層の高等教育機会が少ない等）や今後強化すべきポイント（教育・技術水準の引き上げや企業連携の強化等）については概ね NPO-TER と共通の認識を持っていることが確認できた。また、日本の高専制度の優れた部分をルワンダの高等教育に生かす方向で既に新たな事業を計画していることも示唆頂きました。NPO-TER としては、JICA の動向を見定めながら今後の KOSEN 導入活動の方向性を考えていくことが求められると感じました。マリールイズ理事長がルワンダに KOSEN 制度を導入したいという強い意向を持っているのは、IT 立国に相応しい人材の育成と共に、貧困家庭の優秀な子供たちにも高等教育を受けさせたいということ、高等教育を受けても就職先がない子供たちを減らしたいという思いがあるからです。この思いを叶えるべく、どのような手段が講じられるのか、もう少しあらゆる角度から検討する必要があると強く感じました。

12. 8月17日（マカダミアファーム訪問、合同夕食会開催）

この日は、8月9日に訪問したリンドウ農家原田さんの奥様が経営されているマカダミアファームを訪問・見学しました。ここへ向かう途中、大統領車両の通過待ち規制の渋滞に出くわし、車が30分以上まったく動かないという事態に遭遇しました。キガリ市内の渋滞もかなり酷くなってきていますが、こうした大統領の車列待ち渋滞ということも頻繁にあるようです。さて、渋滞で予定よりもかなり遅れて到着したマカダ

ミアファームですが、奥様は不在ということで事務員の方に案内していただきました。年中安定した収穫を得るためとコストを少しでも抑えるために、生産地の国内配置やロジスティクスに工夫を凝らしていることを説明頂きました。その後、工場内を見学させていただき、人手で一粒一粒丁寧に処理して製品化している様子に感動しました。試食もさせていただき、その香ばしさや食感に感動すら覚えました。マカダミアナッツはお土産用として予め予約しておいたのですが、あまりの美味しさに皆さん追加注文されていました。



道すがら、ルワンダではあまり見かけない田園風景が続きます



説明を受けるツアーメンバー



これから工場内を見学



マカダミアナッツの乾燥工程



製造工程はお見せ出来ません



焼きあがったナッツ



全員で記念撮影

この日の夜はツアーの最終夜。このツアーに関わった人たち（ツアーメンバー、城西国際大学メンバー、ロータリー関係者、NPO-TER 関係者、地元自治体関係者等）がレミゴホテルに集合して夕食会が催されました。今回のツアーをサポートしてくださった NPO-TER の Flavien さんとツアーメンバーの上野君の司会で懇親会がスタート。これほど大勢の方々に関わっていただいたことに感謝です。



二人の司会でスタート



自己紹介しながら懇親を深めました



一通りの自己紹介と挨拶を終了後、懇親を深めるためにホテル内の別会場に設えたプールサイドの夕食会場に移動して盛大な夕食会が催されました。ツアー最後の夜は参加者の明るい声で満たされて、時を忘れて楽しみました。



プールサイドの夕食会場



関係者が一堂に会してツアー最後の夜を楽しみました



13. 8月18～19日（ウムチョムイーザ学園再訪、帰国）

いよいよルワンダ滞在最終日となりました。この日、午前中はツアーメンバーの希望でウムチョムイーザ学園の校舎見学を行いました。8月7日に訪問した際はゆっくり校舎を見学できなかったことに加え、子供達との触れ合いも少なかったために再訪することにしました。

マリルイズ理事長の案内で、最初に建てた校舎部分や保健室、給食室、各教室、講堂、グラウンドなどを見て回りました。先生たちの工夫に溢れた各施設や学習の様子が垣間見られる展示物などに感心しながらの見学会となりました。一通り校舎を見学したところで、マリルイズ理事長のお母さまが私たちに会いに来てくれました。日中の暑い中、高齢であるにも関わらずわざわざ会いに来てくれたお母さまに皆さん感動して、ご挨拶やら記念撮影をしながら感謝の意を表していました。

夏休みにも関わらず学園に来ていた子供達とも短時間ですが触れ合うことが出来て、最終日に本当に良いひと時を過ごささせていただきました。その後、理事長と校長からプレゼントをいただいて、このツアー最後の訪問地となったウムチョムイーザ学園を後にしました。



学園の校舎を改めて見学



保健室も整備されていました



補習に来ていた子供達



日本から贈られた調理道具の給食室



イベント等に使われる講堂



サッカーや運動会を行うグラウンド



マリールイズ理事長のお母さま



子供達とも触れ合えました



プレゼントも

18日の午後、多くの皆さんに見送られてキガリ空港へ。別れを惜しみつつ、キガリ空港 16：25 発のエチオピア航空 ET0806 便で帰国の途に就きました。来た時と逆の道程を辿り、アジスアベバで 22：35 発のエチオピア航空 ET0672 便に乗り継ぎ成田へ向かいました。途中仁川空港で再入管検査を受けて 8月19日の 20：00 頃に無事に成田に到着し、空港内で簡単な解散式を行って今回のツアーを締めくくりました。

今回ツアーに参加したメンバーの目的はそれぞれ違ったかもしれませんが、約 2 週間一緒に行動を共にして相互理解を深め固い連帯感が生まれるとともに、皆さん大のルワンダファンになったことは疑いようもありません。ルワンダは支援するばかりの国ではなくて、教えられること、気付かせてくれることがとても多く、人々のぬくもりはどこか懐かしい忘れかけた古き良き時代の日本人を見るようでした。そんなところも、ルワンダファンになる大きな要素なのかな？と改めて思ったツアーでもありました。